



旧 IXL メタルコンディショナーの内容成分の一部に含まれる不燃性成分で ガソリンや 軽油へ添加すると 車のリアウィンドウが油膜でくもる恐れや 排ガス触媒への影響が心配されましたが 旧 IXL のドロっとした成分が IXL ライトにはなくなったため 「油膜でくもる」などの報告は現在ありません その為 個人の責任で 燃料へ添加される例も多くあります エンジンオイルが循環しない キャブレター、燃料噴射システム、燃料インジェクター、燃料ポンプへイクセル効果を発揮します。 直接 給油口より 添加してください。

燃料への添加率 1 対 2560 ~ 1280(一般車両 ~ レース仕様) IXL 正規販売ホームページ (株)太田



ガソリン IXL 添加量 (乗用車等は薄い添加量で OK) 安全なホームページです
一般車両 レース仕様

32 リッター	13 ~ 25 c c
25 リッター	10 ~ 20 c c
20 リッター	8 ~ 15 c c
13 リッター	5 ~ 10 c c
10 リッター	4 ~ 8 c c
5 リッター	2 ~ 4 c c

添加の間隔は継続的な使用が有効となりますが一般の乗用車には薄い方の添加量で適度な間隔 - たとえば 月に 1 回 満タンにしたタイミングで効果は持続します レース仕様には濃い方の添加量で毎回 給油の度に添加がお勧めです

2ST バイクのオイルは自動でガソリンと混合されて(オイルチック)燃焼するので あらかじめ オイル缶へ添加しておく
毎回の添加が省けて便利です 原付などの2ST オイルへは4~6%の添加率で 例) 500cc の 2ST オイル缶なら
20~30cc 程度をあらかじめ添加しておく
と便利です (レース用エンジン混合式は別紙参照)

混合給油式 IXL をレース仕様の 2ST バイク・レーシングカートへ

2ST オイルへ 2~3%の添加率です

ガソリン (燃料) に対しての IXL のレース用エンジンへの添加率は 1280 対 1 なので

1) 混合比が 25 対 1 の場合 ガソリン 1000 cc に 40 ccのオイルが混合されるので $1000 \div 1280$
で 0.78125 ccの IXL が 40 ccのオイルに含まれるには 1.953%の添加率となり 約 2% となります

2) 混合比が 30 対 1 なら 同じ計算方法で 2.604% で 約 3% となります

2ST オイル缶へ 事前に添加しておけば 毎回の添加が省けて便利ですレース当日は皮膜が出来上がっている
ので ガソリンへの添加は不要!!

すこしでもガソリンが多いほうが爆発力はあがります JAF・MFJ の燃料検査もパス レースの規則に合法的な整備です

「全日本カート選手権」のデリバリーエンジン KT100 の組み付け時にも使用されています

ベアリング・チェーンにも直接塗布できます (もちろん Oリングチェーンにも使用できます)

走行するほど 皮膜が出来上がり 金属摩擦が激減!!